

# 奥州市観光基本計画

～歴史・食・自然 あじわいの郷 奥州市～



平成 25 年度～平成 33 年度

岩手県奥州市

## ～歴史・食・自然

### あじわいの郷 奥州市～



平成18年2月20日に誕生した「奥州市」には、広大な市域に文化・歴史・自然・温泉等の多くの特徴的な観光資源が点在しています。また、肥沃な風土が育てた食ブランドや世界に誇れる伝統工芸品も存在するとともに、郷土食を新名物として売り出す取り組みも商工団体が中心となり行っているところです。さらには、胆沢ダム、胆沢城跡など新たな観光資源となり得る施設等の整備が予定されており、その活用と他の観光資源等との連携により観光客誘致の推進が早急に求められているところです。

平成24年3月に策定した「奥州市総合計画後期基本計画」では、基本構想における施策の大綱において、「賑わいと豊かさのあるまちづくり～農・商・工の産業活性化～」を掲げ、平泉世界文化遺産と連携した観光産業振興に努めることとしています。

本計画は、その「奥州市総合計画後期基本計画」を上位計画に、行政、観光関係団体、事業者、市民などの協働のもと、本市の観光振興の方向性とその施策を明らかにし、より具体的な実施事業の計画を定めたもので、観光施策の指針となるものです。

奥州市の特色的な観光資源である「歴史・食・自然」を活かし、観光関係団体や民間企業、市民が一丸となったおもてなしで観光客を受け入れる「あじわいの郷」づくりを目指し、観光物産の振興に取り組む所存です。

最後に、この計画の策定にあたり、商工業振興審議会における慎重で活発な論議、関係団体等との意見交換会、パブリックコメントなどを通じて多くの意見や提言に感謝と御礼を申し上げ、ご挨拶といたします。

平成25年3月

奥州市長 小沢昌記

# 奥州市観光基本計画 目次

<b>1 計画策定の趣旨</b>	-----1
(1) 策定の目的	-----1
(2) 計画の位置づけ	-----1
(3) 計画の期間	-----1
<b>2 現状と課題</b>	-----2
(1) 観光を取り巻く最近の情勢	-----2
(2) 国及び岩手県の観光施策	-----3
(3) 奥州市の関連計画	-----4
(4) 奥州市における観光・物産の現状	-----7
(5) 観光入込客数の推移	-----8
(6) アンケート調査	-----12
(7) 課題の整理	-----15
<b>3 基本方針</b>	-----16
<b>4 主要施策</b>	-----17
<b>5 成果指標</b>	-----19
(1) 重点目標	-----19
(2) 部門別目標	-----20
<b>6 実施事業</b>	-----23
<b>7 計画の推進体制</b>	-----32
(1) 各事業主体の役割	-----32
(2) 計画のフォローアップ	-----32

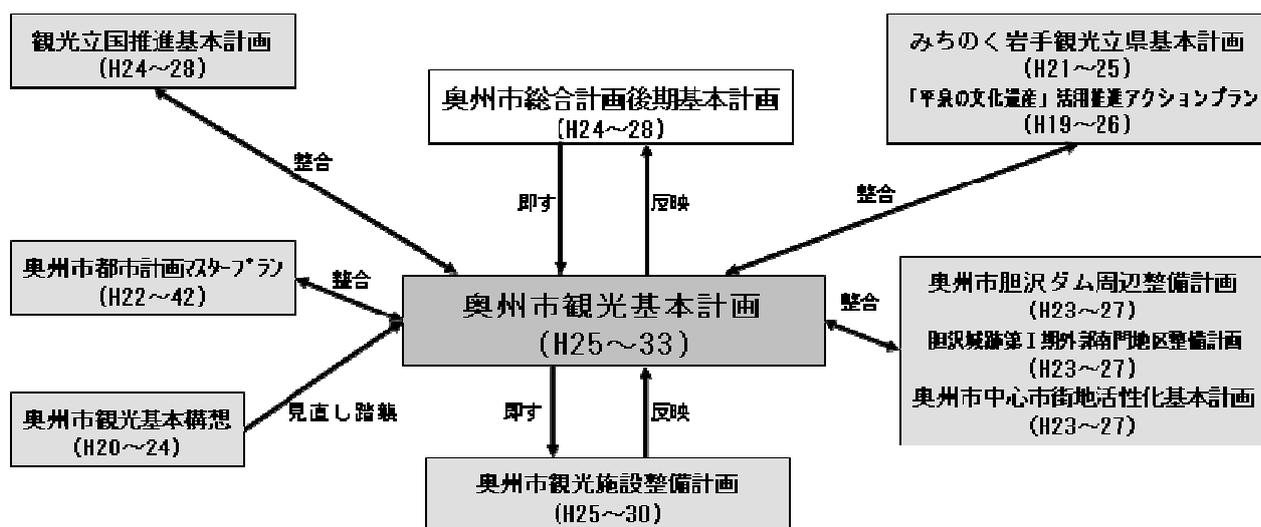
# 1 計画策定の趣旨

## (1) 策定の目的

この計画は、行政、観光関係団体、事業者、市民などの協働のもと、奥州市における観光施策を総合的かつ効果的に推進するための具体的な方向を示すものであり、観光施策の指針となるものです。

## (2) 計画の位置づけ

本計画は、奥州市総合計画基本構想に掲げる目指すべき都市像の実現に向け、必要となる施策や事業を部門別に体系化した「奥州市総合計画後期基本計画」を上位計画とするもので、本市の観光振興の方向性とその施策を明らかにし、より具体的な実施事業の計画を定めるものです。なお、市町村合併後の市の統一した観光振興の方向性を定め、平成20年度から24年度までを期間としていた「奥州市観光基本構想」については、構想内容を見直しの上、踏襲することとし、本計画において包括するものとします。



## (3) 計画の期間

本計画の期間は、上位計画である「奥州市総合計画」との整合を図り、平成25年度から平成33年度までの9年間とします。これは、現行「奥州市総合計画後期基本計画」の目標年度である平成28年度までを前期計画、新たに策定が見込まれる次期「奥州市総合計画前期基本計画」の目標年度となる見込みの平成33年度までを後期計画とするものです。

(年度)	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	
総合計画	後期計画 (H24~28)					(見込) 前期計画 (H29~33)					
観光基本計画		前期計画 (H25~28)					後期計画 (H29~33)				

## 2 現状と課題

### (1) 観光を取り巻く最近の情勢

未曾有の被害をもたらした東日本大震災は、被災した観光地に壊滅的な打撃を与え、さらに、国民の自粛ムードや訪日旅行への不安により国内外からの旅行者が減少し、全国の観光分野に深刻な影響を及ぼしました。一方で、復興のために国内外から寄せられた支援の輪は、多くの観光交流を生み出すきっかけにもなりました。

しかしながら、国内では、平成 22 年における国内宿泊観光旅行を全く行わない国民の割合は 64.4%にも及んでいます。特に旅行を全く行わない若者の割合が大きくなっていることが顕著であり、これが定着し、長期的に国民全体の旅行行動が鈍ることも危惧されているところです。

国民の国内宿泊旅行の動向を見ると、平成 22 年における国民 1 人あたりの国内宿泊観光旅行宿泊数は 2.12 泊となっており、年々減少傾向にあります。これは、世界的な金融危機による景気低迷の影響や趣味・レジャーの多様化による旅行の魅力の相対的な低下などが要因として考えられます。

岩手県における平成 23 年度の観光地点等入込客数を見ると、岩手県全体で 23,848,698 人であり、前年比で 14.4%の減少となっています。これは、主に東日本大震災の影響によるものと推測されます。しかしながら、月別入込客数の前年比を見ると 4 月、5 月における減少幅が大きかったものが 6 月以降は回復傾向にあり、また、市町村別の入込客数を見ると、平泉町は 2,102,582 人で前年比 12.5%の増加となっており、平成 23 年 6 月の世界文化遺産「平泉」の登録を契機に観光客が増加していることがうかがえます。

このような中、観光庁では、平成 24 年 3 月から平成 25 年 3 月までの期間において、東日本大震災からの復興を祈念し、東北をまるごと博覧会場と見立てた一大キャンペーンである「東北観光博」を開催し、東北地方への旅行需要の喚起を図りました。

また、岩手県では、平成 24 年 4 月から 6 月までの期間において、「いわてデスティネーションキャンペーン（いわて DC）」が開催され、いわて DC 終了後も平成 25 年度にアフター DC キャンペーンを開催を予定するなど、多様なキャンペーン活動を展開し、観光需要の拡大、観光客の増加に向けた取り組みが行われています。



## (2) 国及び岩手県の観光施策

### 観光立国推進基本計画（平成 24 年度～28 年度）

国では平成 18 年 12 月に成立した「観光立国推進基本法」に基づき、観光立国の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、国民経済の発展、国民生活の安定向上、及び国際相互理解の増進を図るため、新たに「観光立国推進基本計画」を平成 24 年 3 月に策定しました。

#### 基本的な方針

- ① 震災からの復興 ～観光が、復興を支え、日本を元気づける～
- ② 国民経済の発展 ～観光が、日本経済と地域を再生する～
- ③ 国際相互理解の増進 ～観光が、世界を惹きつける～
- ④ 国民生活の安定向上 ～観光が、人生を楽しく豊かにする～

### みちのく岩手観光立県基本計画（平成 21 年度～25 年度）

岩手県では、「みちのく岩手観光立県基本条例」に基づき、「いわて県民計画」における政策の基本的な考え方を踏まえ、県の観光振興に関する施策を総合的、計画的に推進するための計画として、「みちのく岩手観光立県基本計画」を平成 22 年 3 月に策定しました。

#### 観光振興に関する施策

- ① ゆたかな地域を創る : 地域の魅力の発見、創造
- ② 担い手を育てる : 観光人材の育成
- ③ お客様に来ていただく : 効果的な情報発信と誘客活動
- ④ 快適性を高める : 交通ネットワークの整備とユニバーサルデザイン化
- ⑤ 世界とつながる : 国際観光の振興

### 「平泉の文化遺産」活用推進アクションプラン（平成 19 年度～26 年度）

岩手県では、世界遺産の候補資産を構成する平泉町、一関市、奥州市の地域を中心に、来訪されるすべての方々に、この地域の魅力を感じていただくとともに、地域においても、世界遺産登録を契機としたまちづくりがなお一層推進されるよう、「平泉の文化資産」を活用した地域振興策として取り組むべき事項を示すため、平成 19 年 11 月に『「平泉の文化遺産」活用推進アクションプラン』を策定しました。

#### アクションプランが目指す姿

自然と創造が織りなす国際的な歴史・文化都市「HIRAIZUMI」へ

### (3) 奥州市の関連計画

#### 奥州市総合計画後期基本計画（平成 24 年度～28 年度）

市の総合的かつ計画的な行政運営を図りながら、市勢の発展を目指すための指針として平成 19 年 3 月に「奥州市総合計画」を策定しました。総合計画の基本構想については、計画期間を 10 年としていましたが、社会経済構造の変化や、震災などに対応するため見直すこととし、これらの新しい課題や喫緊の課題に対応する総合計画基本構想・後期基本計画を平成 24 年 3 月に策定しました。この計画により、持続可能な都市機能の安定を図りながら「地域の個性がひかり輝く自治と協働のまち奥州市」を確かなものとし、この計画に連なる将来において世界に誇れる奥州市の構築を見据えることとしています。

基本構想における施策の大綱において、「賑わいと豊かさのあるまちづくり～農・商・工の産業活性化～」を掲げ、平泉世界文化遺産と連携した観光産業振興に努めることとしています。

#### 市政発展のための戦略プロジェクト

- ① 子育て環境ナンバーワンプロジェクト
- ② おうしゅう農畜産ブランド オンリーワンプロジェクト
- ③ 工業振興プロジェクト

#### 広域連携プロジェクト

- ① I L C 東北誘致プロジェクト

#### 施策の大綱

- I みんなで創る自立したまちづくり～協働社会の形成～
- II 未来を拓く人を育てる学びのまちづくり～教育・文化の振興～
- III 健康で安心して暮らせるまちづくり～保健・医療・福祉の充実～
- IV 賑わいと豊かさのあるまちづくり～農・商・工の産業活性化～

#### 観光の振興

- ① 観光客誘致の推進
  - ② 物産の振興
  - ③ 観光施設の整備等の推進
  - ④ 観光関係団体との連携
- V 豊かな自然と共生する快適で安全なまちづくり～生活環境の充実～
  - VI 安全で心地よい生活空間のまちづくり～都市環境の整備～

#### 奥州市都市計画マスタープラン（平成 22 年度～42 年度）

都市計画法第 18 条の 2 に位置づけられた「市町村の都市計画に関する基本的な方針」として、総合計画の将来都市像を実現するため、長期的な視点から都市及び地域のあるべき姿をより具体的に示すとともに、土地利用、都市基盤整備及びそれを実現するための方策等を示すため、「奥州市都市計画マスタープラン」を平成 22 年 3 月に策定しました。

まちづくりの基本目標において、「訪れたいくなるまちづくり」を掲げ、多種多様な歴史・文化資源を保全・活用し、周辺環境の整備・充実、資源相互の連携強化を進めるとともに、近隣都

市との連携による広域的な観光ルートの形成を図り、市民が誇りに思え、世界中から多くの人  
が訪れ、奥州市らしさを感じられるまちづくりを進めることにより、「世界に誇れる歴史・文化  
が息づくまちづくり」を目指すこととしています。

#### まちづくりの基本目標

- ① 環境にやさしいまちづくり
- ② 住みたくなるまちづくり
- ③ 訪れたくなるまちづくり

世界に誇れる歴史・文化が息づくまちづくり

#### 奥州市観光基本構想（平成 20 年度～24 年度）

合併前のそれぞれの地域性を活かした取り組みを継承する形で行われてきた市の観光施策に  
ついて、統一した方向性を持って観光振興に取り組むことにより、さらにスケールメリットを  
活かした施策を展開し、効果的、効率的な観光振興を図ることを目指すため「奥州市観光基本  
構想」を平成 20 年 2 月に策定しました。

基本構想では、この地に暮らす人たちにとって魅力があり、快適に、快活に暮らせる「魅力・  
賑わいのあるまちづくり」を進め、訪れる人たちにその魅力を発信することにより、観光客に  
とって「ゆっくり過ごしたいまちづくり」を実現し、「観光客、市民にとって心地よいまちづく  
り」を目指した観光都市像を形成していくこととしています。

#### 戦略プログラム

- ① 着地型・滞在型旅行商品造成プログラム
- ② 平泉世界文化遺産観光活用プログラム
- ③ 物産ブランド化推進プログラム
- ④ まちなか魅力・賑わいづくりプログラム
- ⑤ 情報発信プログラム

#### 奥州市胆沢ダム周辺整備計画（平成 23 年度～27 年度）

平成 25 年度の胆沢ダム完成を控え、胆沢ダム周辺の整備のあり方、具体的な整備実施計画を  
定めるため、「奥州市胆沢ダム周辺整備計画」を平成 24 年 3 月に策定しました。

#### 計画の方向

- ① 広域的観光利用の促進
- ② 多様な観光資源の有効活用

#### 主な事業

- ① （仮称）下嵐江展望広場
- ② （仮称）石淵望郷広場
- ③ （仮称）下流展望公園
- ④ （仮称）桜回廊
- ⑤ （仮称）水の郷交流館

## 国指定史跡 胆沢城跡第 I 期外郭南門地区整備計画（平成 23 年度～27 年度）

国指定史跡胆沢城跡第 I 期外郭南門地区の整備にあたり、当地区整備計画を平成 23 年 3 月に策定しました。

### 整備内容

敷地造成

遺構復元対象

外郭南門礎石、外郭築地土塀（両翼長さ 12m）、外郭外溝、外郭内溝、橋（外郭外溝内）、南大路・正面道路（幅 12m）、櫓状建物の柱や表示板の立ち上げ手法による表示（東側）・平面表示（西側）

その他

修景植栽、野芝張り（空間地）、説明板の設置、ベンチの設置

## 奥州市中心市街地活性化基本計画（平成 23 年度～27 年度）

市民の生活基盤の核となる中心市街地の活性化を総合的かつ一体的に推進することにより、地域における社会的、経済的、文化的活動の拠点となるにふさわしい魅力ある中心市街地の形成を進めるため、「奥州市中心市街地活性化基本計画」を平成 23 年 3 月に策定しました。

中心市街地の区域を J R 水沢駅西側の商業地域を中心とした約 140ha と設定し、「歴史・文化を活かし、新たな交流をはぐくむ街づくり」を基本コンセプトに掲げ、中心市街地の活性化を目指すこととしています。

### 活性化の基本方針

基本方針 1 歴史・文化資源を活かした交流人口増加による賑わいづくり

基本方針 2 中心市街地の回遊性向上による商店街・地域コミュニティの活力向上

## 奥州市観光施設整備計画（平成 25 年度～30 年度）

市内の観光施設の老朽化等に伴い、利用者の安全に配慮した施設の維持管理並びに観光の多様化等により、施設・設備の一層の充実が必要なことから、「奥州市観光施設整備計画」を平成 24 年度に策定し、利用者ニーズに対応した施設整備を計画的に進めることとしています。

### 観光施設整備の基本方針（案）

- ① 施設の役割に応じた整備
- ② 観光客の変化に応じた整備
- ③ 老朽化に対応した整備
- ④ 利便施設の整備
- ⑤ 環境に配慮した施設整備
- ⑥ 民営化に向けた施設整備

## (4) 奥州市における観光・物産の現状

### ① 交通アクセス

本市は、東北新幹線（水沢江刺駅）、東北本線（前沢駅、陸中折居駅、水沢駅）、東北自動車道（平泉前沢IC、水沢IC）、釜石自動車道（江刺田瀬IC）、国道4号等の交通の利便性が比較的高く、いわて花巻空港とのアクセスも良好であり、また、世界文化遺産「平泉」、民話の郷「遠野」、宮沢賢治の「花巻」等の周辺観光地に程近く位置しています。

### ② 広い市域と点在する観光資源

日本最大級の茅葺屋根建築として有名な「正法寺」、歴史公園「えさし藤原の郷」、花の百名山「栗駒国定公園焼石連峰」、世界文化遺産の追加登録を目指している史跡「白鳥館遺跡」、「長者ヶ原廃寺跡」の2資産をはじめ、文化・歴史・自然・温泉等の多くの特徴的な観光資源が広大な市域に点在しています。

### ③ 物産品や郷土料理

本市には、肉質最高峰を誇る「前沢牛」をはじめ、高級ブランドとして高値で取引される「江刺りんご」、食味ランキングで特A評価を獲得している「岩手ふるさと米」、「江刺金札米」、岩手県を代表する銘菓である「岩谷堂羊羹」など肥沃な風土が育てた食ブランドが多く存在します。また、奥州藤原氏時代から引き継がれる「南部鉄器」、「岩谷堂箆笥」など世界に誇れる伝統工芸品も存在します。

さらには、地域に古くから伝わる郷土食である「はっと料理」、「あんかけうどん」を新名物として売り出す取り組みを商工団体が中心となり行っています。

### ④ 地域に根ざしたまつり・イベント

囃子屋台の音曲が県の無形民俗文化財に指定されている「日高火防祭」、区民総参加をモットーに甚句踊りを披露する「江刺甚句まつり」、食ブランド前沢牛を堪能できる「前沢牛まつり」、東奥の奇祭といわれる裸の男と炎のまつり「黒石寺蘇民祭」、小正月の年中行事を再現し、日本最大級の福俵・大白が登場する「全日本農はだてのつどい」、騎馬武者の行列を再現した「奥州ころもがわ祭り」や「子供騎馬武者行列」、馬事振興と併せた「奥州流鎗馬合戦」など地域色豊かな様々なまつり、イベントが開催されています。

### ⑤ ロケの誘致

歴史公園えさし藤原の郷を中心にテレビや映画等のロケ誘致が行われており、近年では、NHK大河ドラマ「龍馬伝」や「平清盛」、NHKBS大型時代劇「アテルイ伝」などのロケが行われています。

### ⑥ 新たな観光資源

平成24年度の史跡高野長英旧宅災害復旧工事の完了、平成25年度の胆沢ダム完成、平成27年度の史跡胆沢城跡第I期外郭南門地区の復元整備の完了など本市の新たな観光資源となり得る施設等の整備が予定されており、胆沢ダムにおいては、あわせて周辺の環境整備も予定されています。

### ⑦ 広域的な観光推進

平成23年6月に登録された世界文化遺産「平泉」の関連史跡を有する2市1町（奥州市、一

関市及び平泉町)で構成する「世界遺産連携推進実行委員会」や、岩手県南エリアで構成する「いわて県南広域圏観光産業振興推進協議会」において、旅行商品の造成や誘客キャンペーン活動、リーフレットの作成などを実施し、広域的な観光推進に取り組んでいます。

## (5) 観光入込客数の推移

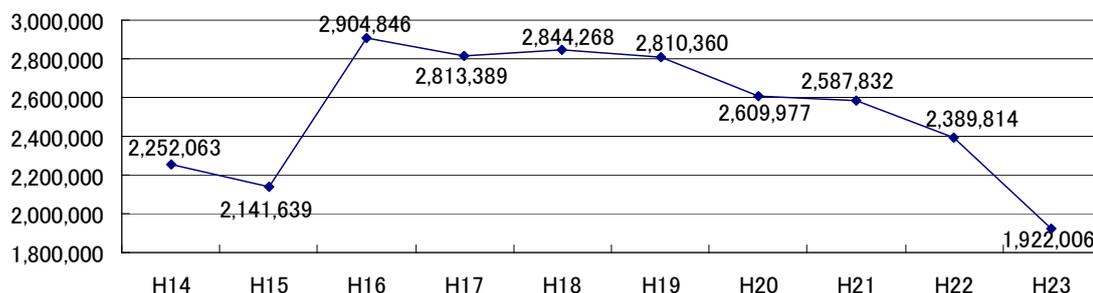
### ① 奥州市の観光入込客数

本市の観光入込客数は、合併時の平成18年においては2,844,268人であったものが、年々減少傾向にあり、特に平成20年が前年比7.1%減の2,609,977人、平成23年が対前年比19.5%減の1,922,006人となっており減少割合が顕著です。これは、平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震、平成23年に発生した東日本大震災の影響による観光客の減少、イベントの中止などの影響によるものと推測されます。

#### ■奥州市の観光入込客数

(人)

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
水沢区	907,615	822,361	1,083,031	888,021	1,025,567	1,061,719	1,001,303	977,221	889,435	762,674
江刺区	678,273	650,218	683,102	777,220	670,608	637,821	619,395	566,719	519,698	406,311
前沢区	364,687	374,888	431,259	454,109	464,884	473,220	457,521	447,496	439,962	269,302
胆沢区	301,488	294,172	291,021	272,384	278,509	269,855	231,264	242,801	226,186	214,859
衣川区			416,433	421,655	404,700	367,745	300,494	353,595	314,533	268,860
奥州市全体	2,252,063	2,141,639	2,904,846	2,813,389	2,844,268	2,810,360	2,609,977	2,587,832	2,389,814	1,922,006



資料：奥州市商業観光課

### ② 奥州市主要観光施設の観光入込客数

本市の主要観光施設(22施設)の入込客数の状況を見ると、総じて年々減少傾向にあります。寺院・資料館・レジャー施設等(9施設)については、各施設ともほぼ横ばいで推移していたものが、平成20年及び平成23年において大幅に減少しました。特に、「えさし藤原の郷」、「とうほくニュージーランド村」、「正法寺」の減少が顕著でした。これは、岩手・宮城内陸地震及び東日本大震災の影響による観光客の減少が要因として考えられます。スキー場(3施設)については、積雪の状況により営業期間が左右されることもあり、利用者数はその年毎に流動的となっています。温泉・宿泊施設(10施設)についても、年々減少傾向となっています。

■奥州市主要観光施設の入込客数

(人)

施設名	H19	H20	H21	H22	H23
寺院・資料館・レジャー施設等 正法寺・黒石寺・胆沢城跡(埋蔵文化財調査センターを含む)・ えさし藤原の郷・えさし郷土文化館・黒壁ガラス館・牛の博物館・ 胆沢ダム学習館・とうほくニュージールランド村	428,479	358,830	394,107	360,576	265,737
スキー場 越路スキー場・ひめかゆスキー場・国見平スキー場	12,676	27,585	22,934	30,439	31,439
温泉・宿泊施設 胆沢川温泉さくらの湯・薬師堂温泉・水沢石田温泉・前沢温泉 舞鶴の湯・すばおあご・焼石クアパークひめかゆ・やけいし館・国 見平温泉・黒滝温泉・サンホテル衣川荘	887,387	772,377	752,479	700,302	643,998
計	1,328,542	1,158,792	1,169,520	1,091,317	941,174

資料：奥州市商業観光課

③ 奥州市の教育旅行入込推計数

奥州市の教育旅行入込推計数を見ると平成23年は176学校、9,150人となっています。東日本大震災の風評被害の影響により岩手県全体の入込推計数が130,985人と前年比31.7%の大幅減となる中、奥州市においては、前年比204%の増加となっています。これは、発地別の推計数のとおり宮城県からの入込数が大幅に増加していることから、これまで福島県を旅行地としていた宮城県の教育旅行者が、東日本大震災による放射能問題により、当市などに旅行地を変更したことで増加したものと推測されます。なお、県全体の発地別の入込推計を見ると東北圏が115,354人と全体の約88%を占め、次いで関東圏が8,608人と全体の約6.5%を占めています。一方、北海道は906人と全体の約0.7%となっています。

■奥州市の教育旅行入込推計数

(校・人)

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
学校数	67	40	27	88	115	82	63	79	65	176
人員	4,804	2,085	2,328	6,664	8,871	7,506	7,021	6,980	4,496	9,150

資料：岩手県観光統計(独自統計)

■奥州市の発地別教育旅行入込推計数

(人)

	岩手	宮城	青森・秋田	山形・福島	北海道	関東	その他	計
H23	1,428	6,469	718	295	90	140	10	9,150
H22	58	1,229	119	197	2,036	522	335	4,496

資料：奥州市商業観光課

■岩手県の発地別教育旅行入込推計数

(人)

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州	その他	計
H23	906	115,354	8,608	1,100	2,339	713	877	1,088	130,985
H22	79,252	51,568	42,468	731	16,309	1,399	27	82	191,836

資料：岩手県観光統計(独自統計)

(注) 岩手県観光統計における教育旅行の調査対象

学校、学習塾、スポーツ合宿など、教育や学習の一環として岩手県内の観光地、観光施設、行・祭事等を訪問した県外の教育旅行者とする。

教育旅行に含まれるのは、修学旅行、林間学校、臨海学校、スキー旅行・研修、スポーツ合宿(大会参加を含む)、補修・クラブ合宿、オリエンテーション、学校主催の卒業旅行、その他学校(学年・学級)行事、学習塾・スポーツ団体行事などにより実施した旅行とする(先生方の職員旅行や家族旅行は対象外)。

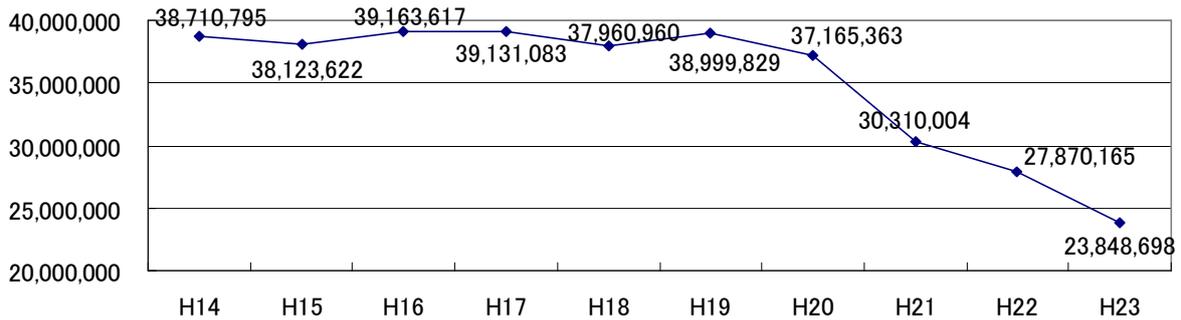
#### ④ 岩手県の観光入込客数

岩手県の観光入込客数の状況を見ると、平成20年までは38百万人前後で推移していたものが、平成21年以降は年々減少傾向にあります。特に平成23年度において対前年比14.4%減の23,848,698人となっています。これは、東日本大震災の影響による沿岸エリアの大幅減少、県内全域における風評被害による減少が要因として考えられます。

■岩手県の観光入込客数

(人)

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
岩手県全体	38,710,795	38,123,622	39,163,617	39,131,083	37,960,960	38,999,829	37,165,363	30,310,004	27,870,165	23,848,698



資料：岩手県観光統計（共通基準統計）

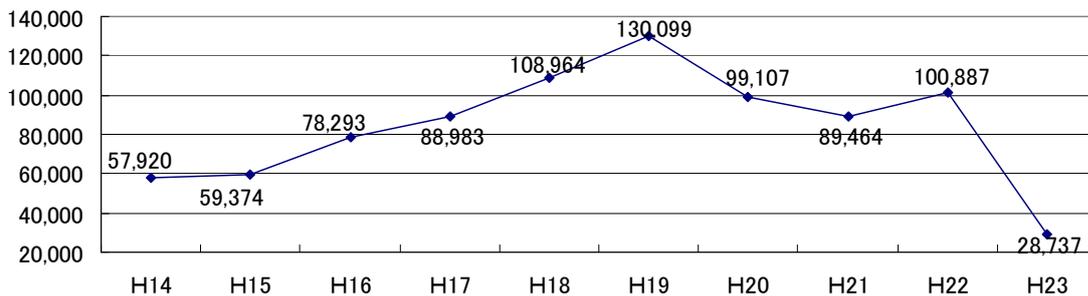
#### ⑤ 岩手県の外国人観光客入込数

岩手県の平成23年の外国人観光客入込数は28,737人で、前年比71.5%の大幅減となっています。これは、東日本大震災による風評、特に放射能汚染に対する不安から訪日旅行が敬遠されたことが要因として考えられます。

■岩手県の外国人観光客入込数

(人)

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
外国人観光客入込数	57,920	59,374	78,293	88,983	108,964	130,099	99,107	89,464	100,887	28,737



資料：岩手県観光統計（独自統計）

## ⑥ 一関市、平泉町及び奥州市の外国人観光客入込数

一関市、平泉町及び奥州市の外国人観光客入込数を見ると、平成23年においては、岩手県全体と同様に総じて大幅な減少となっております。しかしながら、この2市1町において、県全体の約13.6%を占めており、また、今後、平泉の世界遺産登録を契機に外国人観光客の回復が予想されることから、周辺地域を含めた受入態勢の整備が望まれます。

■一関市、平泉町及び奥州市の外国人観光客入込数 (人)

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
一関市	3,257	3,191	5,780	5,307	6,752	7,357	517	5,034	6,690	1,837
平泉町	8,853	9,281	9,750	12,251	15,040	16,676	17,657	12,174	14,489	1,867
奥州市	983	612	600	1,446	1,332	1,512	679	529	501	203
	13,093	13,084	16,130	19,004	23,124	25,545	18,853	17,737	24,680	3,907

資料：岩手県観光統計（独自統計）

## ⑦ 奥州市周辺の主な市町の観光入込客数

奥州市周辺の主な市町の観光入込客数の状況を見ると、平成23年度は岩手県内全域で減少傾向である一方、盛岡市、花巻市、遠野市、平泉町は増加しています。特に平泉町の入込客数は対前年比12.5%増の2,102,582人となっています。これは、平成23年6月の平泉の世界遺産登録により、観光客が増加していることがうかがえます。しかしながら、本市をはじめ一関市、金ケ崎町、北上市などの周辺地域では減少傾向にあることから、平泉を訪れた観光客を十分に呼び込むことができていない現状がうかがえます。

■奥州市周辺の主な市町の観光入込客数 (人)

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
盛岡市	4,167,907	4,190,254	4,245,587	4,446,981	4,510,031	4,734,954	4,723,165	3,252,044	3,244,470	3,572,712
花巻市	3,348,564	3,188,939	3,056,286	3,054,970	2,917,619	2,815,260	2,655,072	2,079,170	1,893,128	1,976,926
北上市	1,797,696	1,740,498	1,799,247	1,881,441	1,956,712	1,873,740	1,803,219	858,108	871,138	416,670
遠野市	2,167,698	2,044,019	2,086,076	1,922,867	1,921,199	2,089,503	1,942,251	1,858,005	1,890,815	1,963,230
一関市	2,208,454	2,271,558	2,240,570	2,491,158	2,166,557	2,176,563	1,993,210	2,170,333	2,321,776	2,221,870
金ケ崎町	255,257	264,430	260,130	269,454	334,680	380,198	398,753	375,638	353,326	348,219
平泉町	1,625,300	1,650,200	1,671,000	2,208,500	1,877,300	2,051,700	1,968,100	1,987,846	1,867,704	2,102,582

資料：岩手県観光統計（共通基準統計）

(注)「資料：岩手県観光統計（共通基準統計）」について。観光庁にて、平成21年12月「観光入込客統計に関する共通基準を策定したことに伴い、岩手県ではその基準を平成22年4月より導入。よって、過去データと単純比較ができない場合があります。

## (6) アンケート調査

### ① どんとこい誘客奥州促進会議アンケート調査（実施：奥州市）

時期：平成23年9月24日（土）

対象：JR一ノ関駅及び平泉駅利用観光客

サンプル数：JR一ノ関駅・・・66 JR平泉駅・・・104

#### ア) 居住地について

「関東」が最も多く全体の55.3%を占めており、次いで「北海道・東北」が12.4%となっています。また、西日本からの観光客も見られ、平泉の世界文化遺産登録を契機に全国各地から観光客が訪れていることがうかがえます。

#### ■居住地について

(人・%)

調査地	県内		北海道・東北		関東		中部		近畿		中国		四国		九州		その他		不明		計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
一ノ関駅	2	3.0%	7	10.6%	45	68.2%	3	4.5%	2	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.0%	1	1.5%	4	6.1%	66
平泉駅	17	16.3%	14	13.5%	49	47.1%	5	4.8%	6	5.8%	3	2.9%	2	1.9%	4	3.8%	0	0.0%	4	3.8%	104
計	19	11.2%	21	12.4%	94	55.3%	8	4.7%	8	4.7%	3	1.8%	2	1.2%	6	3.5%	1	0.6%	8	4.7%	170

#### イ) 観光予定地について

「平泉」が最も多く全体の57.9%を占めており、次いで「一関」が10.6%となっています。しかしながら、「奥州」は2.8%となっており、平泉を訪れた観光客が、奥州市を訪れる割合が少ないことがうかがえます。

#### ■観光予定地について

(人・%)

調査地	平泉		一関		奥州		北上		花巻		盛岡		県内		県外		不明		計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
一ノ関駅	54	55.7%	19	19.6%	2	2.1%	0	0.0%	1	1.0%	3	3.1%	4	4.1%	12	12.4%	2	2.1%	97
平泉駅	93	59.2%	8	5.1%	5	3.2%	7	4.5%	10	6.4%	15	9.6%	7	4.5%	11	7.0%	1	0.6%	157
計	147	57.9%	27	10.6%	7	2.8%	7	2.8%	11	4.3%	18	7.1%	11	4.3%	23	9.1%	3	1.2%	254

#### ウ) 宿泊先について

「県外」が最も多く全体の20.1%を占めており、次いで「一関」が19.0%となっています。しかしながら、「奥州」は3.4%となっており、平泉を訪れた観光客が、奥州市を宿泊先として選択する割合が少ないことがうかがえます。

#### ■宿泊先について

(人・%)

調査地	平泉		一関		奥州		北上		花巻		盛岡		県内		県外		無し		不明		計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
一ノ関駅	9	13.0%	19	27.5%	2	2.9%	0	0.0%	2	2.9%	6	8.7%	4	5.8%	18	26.1%	3	4.3%	6	8.7%	69
平泉駅	8	7.6%	14	13.3%	4	3.8%	8	7.6%	7	6.7%	6	5.7%	4	3.8%	17	16.2%	17	16.2%	20	19.0%	105
計	17	9.8%	33	19.0%	6	3.4%	8	4.6%	9	5.2%	12	6.9%	8	4.6%	35	20.1%	20	11.5%	26	14.9%	174

## ② 奥州市観光動態調査（実施：奥州市、奥州商工会議所）

時期：平成21年10月

対象：市内の主要な観光施設、宿泊施設利用者

サンプル数：市内観光施設（7施設）・・・310

市内宿泊施設（6施設）・・・199

### ア) 居住地について

「岩手県外」の方が58.2%と最も多くの割合を占めています。総体的に県外からの観光客が多いことがうかがえます。調査地点別に見ると、「Zプラザアテルイ」において「奥州市内」の方が78.2%と多くの割合を占めています。これは、同施設内の産直施設などへの買い物目的での来訪や、水沢公園など隣接する公共公益施設でのイベント・行事等を訪れた際に立ち寄る市民の割合が高いことによるものと想定されます。

#### ■居住地について

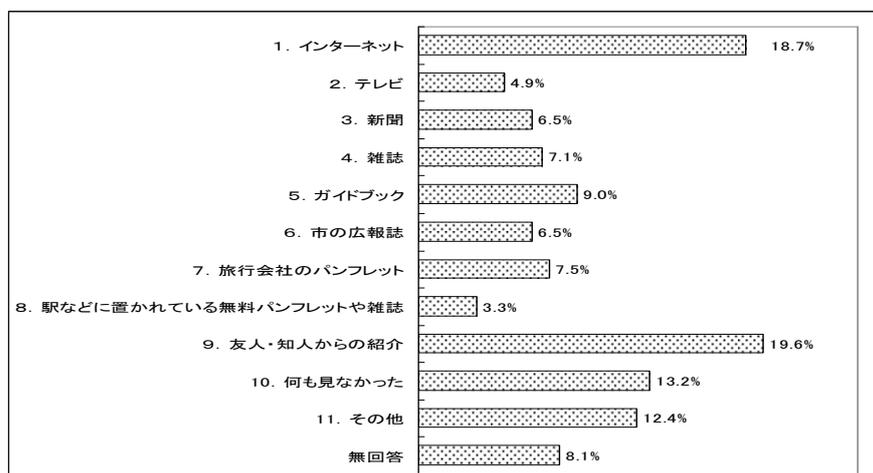
(人・%)

分類	調査場所	奥州市内		岩手県内		岩手県外		無回答		計
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
観光施設	えさし藤原の郷	12	8.5%	30	21.3%	98	69.5%	1	0.7%	141
	Zプラザアテルイ	68	78.2%	15	17.2%	4	4.6%	0	0.0%	87
	埋蔵文化財調査センター	3	20.0%	2	13.3%	9	60.0%	1	6.7%	15
	牛の博物館	1	6.3%	4	25.0%	11	68.8%	0	0.0%	16
	高野長英記念館	1	10.0%	0	0.0%	9	90.0%	0	0.0%	10
	斎藤實記念館	1	12.5%	3	37.5%	4	50.0%	0	0.0%	8
	後藤新平記念館	3	9.1%	10	30.3%	20	60.6%	0	0.0%	33
宿泊施設	水沢グランドホテル	0	0.0%	4	50.0%	4	50.0%	0	0.0%	8
	水沢サンパレスホテル	1	10.0%	1	10.0%	8	80.0%	0	0.0%	10
	プラザイン水沢	0	0.0%	3	21.4%	11	78.6%	0	0.0%	14
	みずさわ北ホテル	1	9.1%	1	9.1%	9	81.8%	0	0.0%	11
	焼石クアパークひめかゆ	2	1.9%	37	34.9%	62	58.5%	5	4.7%	106
	サンホテル衣川荘	0	0.0%	3	6.0%	47	94.0%	0	0.0%	50
	計	93	18.3%	113	22.2%	296	58.2%	7	1.4%	509

### イ) 奥州市観光情報の入手媒体について

「友人・知人からの紹介」が19.6%と最も多く、次いで「インターネット」が18.7%、「何も見なかった」が13.2%となっています。

#### ■観光情報入手媒体について



## ウ) 市内施設間の観光動態について

観光施設における市内観光施設への観光動態の状況を見ると、総体的には「調査地点のみ」が44.3%と最も多い割合を占めており、特に本市の主要観光施設である「えさし藤原の郷」においては、57.8%と高い割合を占めています。このことから、市内の観光施設を訪れた方が、市内の他の観光施設を周遊せず、他市町村の観光地等へ流出している通過型の割合が高いことがうかがえます。しかしながら、「埋蔵文化財調査センター」においては、市内の他の観光施設を訪れる割合が比較的高い傾向にあります。また、「Zプラザアテルイ」を訪れた方は、「その他」の割合が38.5%と多いことから、水沢公園などといった主要観光施設以外を訪れている割合が高いこと、「無回答」の割合が27.9%ということから、観光目的以外で施設を訪れた方の割合や、他の観光施設へ立ち寄らない方の割合が比較的高いことがうかがえます。

### ■観光施設における観光動態の状況

(%)

	三先人 記念館	武家住宅 資料館	宇宙 遊学館	Zプラザ アテルイ	キューボ ラの館	黒石寺・ 正法寺	えさし藤 原の郷	蔵まち モール	牛の 博物館	温泉 施設	その他	調査地 点のみ	無回答 無効
えさし藤原の郷	1.0%	0.5%	0.0%	0.5%	7.8%	4.4%	9.8%	1.0%	0.0%	12.7%	57.8%	4.4%	
Zプラザアテルイ	0.8%	0.8%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	38.5%	29.5%	27.9%	
埋蔵文化財調査センター	14.7%	14.7%	5.9%	2.9%	2.9%	8.8%	17.6%	2.9%	5.9%	8.8%	2.9%	0.0%	11.8%
牛の博物館	7.4%	7.4%	0.0%	0.0%	0.0%	7.4%	11.1%	3.7%	11.1%	3.7%	40.7%	7.4%	
高野長英記念館		16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	11.1%	5.6%	0.0%	5.6%	0.0%	55.6%	0.0%
斎藤實記念館		19.0%	4.8%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	9.5%	0.0%	38.1%	0.0%
後藤新平記念館		11.3%	3.8%	1.9%	1.9%	5.7%	5.7%	1.9%	1.9%	5.7%	1.9%	54.7%	3.8%
合計	2.1%	4.6%	1.3%	0.6%	3.8%	4.4%	3.5%	5.0%	1.0%	2.9%	15.9%	44.3%	10.6%

## エ) 宿泊の状況について

宿泊の状況を見ると、総体的には「宿泊しない(日帰り)」が31.6%と一番多く、地点別では「花巻市」が10.0%と一番多い割合を占めている反面、「奥州市内」への宿泊は6.5%と低い傾向にあります。また、「無回答」については、市民の方が施設を訪れている割合が高いことなどが理由として推測されます。

### ■宿泊の状況(観光施設毎)

(%)

	奥州市内	平泉町	花巻市	北上市	一関市	遠野市	宿泊しない (日帰り)	その他	無回答
えさし藤原の郷	7.8%	0.0%	19.1%	7.8%	4.3%	0.0%	33.3%	23.4%	4.3%
Zプラザアテルイ	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.1%	0.0%	82.8%
埋蔵文化財調査センター	6.7%	6.7%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	46.7%	6.7%	26.7%
牛の博物館	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	6.3%	43.8%	18.8%	12.5%
高野長英記念館	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%	30.0%	20.0%	10.0%
斎藤實記念館	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	12.5%	25.0%
後藤新平記念館	12.1%	3.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	48.5%	15.2%	12.1%
合計	6.5%	1.0%	10.0%	3.5%	3.2%	0.3%	31.6%	14.5%	29.4%

## (7) 課題の整理

上位計画である奥州市総合計画との整合及び当市の観光・物産の現状等を踏まえ、次のとおり課題を整理します。

### **課題① 広域観光、着地型観光の推進が不十分**

世界文化遺産登録を契機に平泉を訪れている観光客が増加傾向にある中、その観光客を市内に十分に呼び込むことができていない現状にあります。また、文化・歴史・自然・温泉などの多くの特徴的な観光資源を有していますが、観光客がこれら観光資源間を周遊する割合は少なく、他市町村の観光地等へ流出している通過型の割合が高い傾向にあります。また、訪れた観光客は市内宿泊施設を宿泊先として選択する割合が少ない傾向にあり、二次交通の確保も十分ではない現状にあることから、広域エリアでの観光ルートを確立し、着地型・滞在型プログラムを造成することで観光客誘致を推進する必要があります。さらには、まつり・イベントの開催やロケ誘致の推進と連動した観光客誘致を推進するとともに、平成27年度に北海道新幹線新函館駅開業を控えていることから、北海道・函館エリアからの誘客、特に教育旅行の誘致に注力する必要があります。

### **課題② 特産品の普及拡大と郷土食を活かした観光客誘致が必要**

各区にはそれぞれの地域の特性を活かしたお土産品がある中、市を代表する推奨お土産品の位置づけが明確化されていない現状にあります。また、農商工連携の推進や6次産業振興についても十分な成果が上がっていないのが現状です。これらの現状を踏まえ、既存の食ブランドや伝統工芸品などの特産品の更なる普及拡大を図るとともに、地域の特性を活かした加工品、料理メニューの新規開発を推進することで新たな地域ブランドを確立する必要があります。さらには、商工団体が中心として取り組んでいる郷土食を新名物として売り出す取り組みを強化し、観光客誘致を推進する必要があります。

### **課題③ 新たな観光資源の活用と既存施設、観光案内看板の整備、改善が必要**

胆沢ダム、胆沢城跡など新たな観光資源となり得る施設等の整備が予定されており、その活用と他の観光資源等との連携により観光客誘致を推進する必要があります。また、老朽化している既存観光施設がある現状や平泉文化遺産関連史跡を中心とした誘導案内看板が不十分であることから、これらの計画的な整備、改善をする必要があります。

### **課題④ 多様な主体の連携体制、情報発信機能の充実が不十分**

観光物産の振興には観光関係団体や市民との連携が必要不可欠であり、各種事業を積極的に推進するための体制を構築する必要があります。また、当市における観光情報発信の手段として電子媒体の活用が不十分であり、日々多様化する観光客のニーズに対応するため、観光情報を効率的に発信するための機能、手段を充実する必要があります。さらには、今後増加が予想される外国人観光客をはじめ、国際リニアコライダー（ILC）の誘致の実現を視野に入れた訪日外国人に対する受入体制、情報発信機能を充実する必要があります。

### 3 基本方針

奥州市の恵まれた立地や観光資源を活かしながら、世界文化遺産「平泉」エリアを中心とした広域的な連携により、観光客誘致を推進し、新たな観光資源の活用や、既存施設の改善を計画的に実施するとともに、効果的な観光情報の発信や観光PR活動を展開します。さらには、既存ブランドの普及拡大や、新たな地域ブランド、特産品の開発を推進するとともに、市内の観光関係団体や市民との連携体制の構築、ホスピタリティーの向上を図り、協働による観光物産の振興を推進します。

このようなことから、奥州市の特色的な観光資源である「歴史・食・自然」を活かし、観光関係団体や民間企業、市民が一丸となったおもてなしで観光客を受け入れる「あじわいの郷」づくりを目指し、「**歴史・食・自然 あじわいの郷 奥州市**」を基本方針の副題に掲げ、次の4つの方針に基づき観光物産の振興に取り組みます。

#### 方針① 観光客誘致の推進

平泉文化遺産エリアなどの広域エリアを視野に入れながら、歴史公園えさし藤原の郷を中心とした市内観光資源を結びつけた観光ルートを確立するとともに、多様な着地型・滞在型プログラムの造成により観光客誘致を推進します。また、まつり・イベントの開催充実、ロケ誘致と連動した観光客誘致を推進するとともに、平成27年度に予定されている北海道新幹線新函館駅開業を視野に入れた北海道・函館エリアからの観光客誘致、特に教育旅行の誘致を展開します。

#### 方針② 物産の振興

「南部鉄器」や「岩谷堂筆筒」などの伝統工芸品や、「前沢牛」、「江刺りんご」、「岩手ふるさと米」、「江刺金札米」などに代表される既存の食ブランドの普及拡大を図るとともに、特産加工品、料理メニューの新規開発の推進による新たな地域ブランドの確立を目指します。また、「はっと料理」や「あんかけうどん」など、奥州市に古くから伝わる郷土食についてご当地メニューとしてさらに広めます。

#### 方針③ 観光施設の整備及び新たな観光開発の推進

平成24年度の史跡高野長英旧宅災害復旧工事の完了、平成25年度の胆沢ダムの完成及び平成27年度の史跡胆沢城跡第Ⅰ期外郭南門地区の復元整備の完了を控え、その新たな資源の活用による観光開発を推進します。また、老朽化した観光施設を計画的に整備、改善するとともに、平泉文化遺産を中心とした誘導案内看板を計画的に整備します。

#### 方針④ 市民、観光関係団体との連携及び情報発信の充実

観光関係団体、市民ボランティアガイドが機動的、効率的に活動できるような体制の構築を図るとともに、観光業に携わる民間企業や市民のホスピタリティー向上による受入態勢の構築を図ります。また、多様化する観光客のニーズに対応するため、紙媒体やインターネットなどを活用した情報発信、観光案内体制の充実を図るとともに、外国人旅行者向けの情報発信を展開します。

## 4 主要施策

### 「方針① 観光客誘致の推進」の主要施策

#### I 広域観光ルートの確立と着地型・滞在型プログラム創出の推進

平泉文化遺産エリア、岩手県南広域エリア、伊達な広域エリアなどを視野に入れながら広域観光ルートを確立するとともに、歴史公園えさし藤原の郷を中心とした市内観光資源間の新たなネットワークの構築による着地型・滞在型プログラムの造成を推進し、旅行エージェント、関係団体と連携した旅行商品の企画と販売を目指します。また、平成27年度に予定される北海道新幹線新函館駅開業を視野に入れた北海道・函館エリアからの誘客、特に教育旅行の誘致を進めます。

#### II ロケ誘致の推進

歴史公園えさし藤原の郷を中心としたテレビ・映画などのロケの誘致と連動して観光客の誘致を推進します。

#### III まつり・イベントの開催

各区で実施しているまつり、イベントについて、その必要性、効果を検証しながら更なる充実を図り、観光客の誘致を推進します。また、関係団体、市民との連携による新たなイベントの開催を検討します。

### 「方針② 物産の振興」の主要施策

#### I 既存ブランドの普及拡大と新たな地域ブランドの確立

「南部鉄器」や「岩谷堂筆筒」などの伝統工芸品については、日本貿易振興機構などとの連携により、国内のみならず、海外への市場拡大に向けた支援を行います。また、「前沢牛」、「江刺りんご」、「岩手ふるさと米」、「江刺金札米」など既存の食ブランドの普及拡大を推進するとともに、地域の特性を活かした加工品、料理メニューの企画・開発を推進します。

また、奥州市に古くから伝わる郷土食である「はっと料理」、「あんかけうどん」について、ご当地メニューとしてさらに広め、地域ブランドとしての商品開発を支援するとともに、それらを活かした観光客の誘致を図ります。

#### II 物産の普及啓発

奥州市の物産振興を目指すため、首都圏などで開催される物産展に積極的に参加して物産の普及啓発を図るとともに、奥州市への誘客を促進します。

### 「方針③ 観光施設の整備及び新たな観光開発の推進」の主要施策

#### I 新たな観光資源の活用による観光開発

胆沢ダムの完成を控え、その周辺における観光開発を推進します。また、胆沢城跡の復元整備、高野長英旧宅の災害復旧工事の完了を契機に、その活用と他の観光資源等との連携による観光客誘致を図ります。

#### II 既存観光施設の整備・改善

奥州市観光施設整備計画に基づき、市内に既存する観光施設について、建設年数や利用状況など勘案し、計画的な施設整備、改善を進めます。

#### III 観光案内看板の整備

平泉に訪れる観光客を奥州市に誘客するために、世界文化遺産と関連のある史跡を中心とした誘導案内看板を岩手県との連携により計画的に整備します。また、外国人向けの看板についてもあわせて整備を推進します。

### 「方針④ 市民、観光関係団体との連携及び情報発信の充実」の主要施策

#### I 観光関係団体・市民ボランティアガイドへの支援

観光関係団体、市民ボランティアガイドが機動的、効率的に活動できるような体制の構築を支援します。

#### II 観光情報発信機能の充実

多様化する観光客の様々なニーズに対応するため、紙媒体や電子媒体などでの情報発信の更なる充実を図ります。また、観光案内所をはじめとした既設案内機能の効果、検証を行い、情報発信施設の充実を図ります。あわせて、外国人旅行者向けの情報発信も展開します。

#### III ホスピタリティーの向上

観光関係団体や民間企業、市民が一丸となったおもてなしによる観光客の受入態勢を構築し、人と人とのつながりによる協働での観光振興を図ります。



## 5 成果指標

### (1) 重点目標

基本方針の成果をより効率的に計るため、下表のとおり市内観光施設から22施設を選定し、その入館者・利用者数をもって重点目標の指標とします。

#### 重点目標：市内主要観光施設(22施設)における入込客数

(千人)

H23 現況値	H26 前期計画 中間目標値	H28 前期計画 最終目標値	H33 後期計画 最終目標値
941	1,078	1,170	1,330

#### 【目標設定の考え方】

市内主要観光施設（下表22施設）の入込客数の最終目標を1,330千人とします。これは、現況数値より概ね41%の増加を図るもので、岩手・宮城内陸地震の発生前である平成19年の水準に回復することを目標とするものです。なお、平成28年における前期計画最終目標値は、概ね平成21年の水準に回復することを目標とし、1,170千人と設定します。

#### ■市内主要観光施設の入込客数

(人)

施設名	H23
寺院・資料館・レジャー施設等 正法寺・黒石寺・胆沢城跡（埋蔵文化財調査センターを含む）・えさし藤原の郷・えさし郷土文化館・黒壁ガラス館・牛の博物館・胆沢ダム学習館・とうほくニュージーランド村	265,737
スキー場 越路スキー場・ひめかゆスキー場・国見平スキー場	31,439
温泉・宿泊施設 胆沢川温泉さくらの湯・薬師堂温泉・水沢石田温泉・前沢温泉舞鶴の湯・すばおあご・焼石クアパークひめかゆ・やけいし館・国見平温泉・黒滝温泉・サンホテル衣川荘	643,998
計	941,174



## (2) 部門別目標

本計画の4つの方針の成果をより効率的に計るため、部門別目標を定めます。

なお、この部門別目標については、奥州市総合計画後期基本計画における基本施策の展開方向（施策）の成果指標に掲げている目標とします。

### 「方針① 観光客誘致の推進」の目標

#### 部門別目標①-1：奥州市の観光入込客数

(千人)

H23 現況値	H26 前期計画 中間目標値	H28 前期計画 最終目標値	H33 後期計画 最終目標値
1,922	2,322	2,590	2,841

#### 【目標設定の考え方】

奥州市の観光入込客数の最終目標を2,841千人とします。これは、現況数値より概ね48%の増加を図るもので、計画最終年の平成33年までに岩手・宮城内陸地震の発生前である平成19年の水準に回復することを目標とするものです。なお、平成28年における前期計画最終目標値は、概ね平成21年の水準に回復することを目標とし、2,590千人と設定します。これは奥州市総合計画後期基本計画の成果指標において、平成28年の最終目標値を合併時の10%増の3,075千人と設定しておりましたが、平成23年に発生した東日本大震災の風評被害等の影響による大幅な減少があったことから、目標値を再設定したものです。

#### 部門別目標①-2：ロケ誘致数

(回)

H23 現況値	H26 前期計画 中間目標値	H28 前期計画 最終目標値	H33 後期計画 最終目標値
7	9	10	13

#### 【目標設定の考え方】

ロケ誘致数の最終目標を13回とします。これは、現況数値より概ね86%の増加を図るものです。なお、平成28年における前期計画最終目標値は10回と設定します。



## 「方針② 物産の振興」の目標

### 部門別目標②：首都圏等物産展出展業者数

(者)

H23 現況値	H26 前期計画 中間目標値	H28 前期計画 最終目標値	H33 後期計画 最終目標値
25	18	20	25

#### 【目標設定の考え方】

(財)いわて産業振興センター主催による首都圏等における物産展出展業者数の最終目標を25者とします。これは、平成22年度の出展業者数が14者であったものが、平成23年度において、震災復興及び平泉世界遺産登録関連の特別物産展が開催されたことにより25者と大幅な増加となる特殊要因があったことから、平成28年度における前期計画最終目標を奥州市総合計画後期基本計画の成果指標の水準とし、平成33年度最終目標を平成23年度水準とすることを目標としたものです。

## 「方針③ 観光施設の整備及び新たな観光開発の推進」の目標

### 部門別目標③：平泉世界遺産関連を中心とした誘導案内看板新設数

(基：累計)

H23 現況値	H26 前期計画 中間目標値	H28 前期計画 最終目標値	H33 後期計画 最終目標値
—	30	50	70

#### 【目標設定の考え方】

平成24年度以降新設する平泉世界遺産関連を中心とした誘導案内看板の新設数の最終目標を70基とします。なお、平成28年における前期計画最終目標値は50基と設定します。



## 「方針④ 市民、観光団体との連携及び情報発信の充実」の目標

### 部門別目標④-1：観光案内ボランティア登録者数

(人)

H23 現況値	H26 前期計画 中間目標値	H28 前期計画 最終目標値	H33 後期計画 最終目標値
66	80	100	110

#### 【目標設定の考え方】

市内観光ボランティアガイド4団体（「みずさわ観光サポーターの会」、「えさし炎ガイドクラブ」、「いさわ散居ガイドの会」及び「奥州市世界遺産登録候補地ガイドの会」）の登録者数の最終目標を110人とします。これは、現況数値より概ね67%の増加を図るものです。なお、平成28年における前期計画最終目標値は100人と設定します。

#### ■観光案内ボランティア登録数

団体名	H23
みずさわ観光サポーターの会	16
えさし炎ガイドクラブ	11
いさわ散居ガイドの会	8
奥州市世界遺産登録候補地ガイドの会	31
計	66

### 部門別目標④-2：（一社）奥州市観光物産協会HPアクセス数

(件:累計)

H23 現況値	H26 前期計画 中間目標値	H28 前期計画 最終目標値	H33 後期計画 最終目標値
—	30,000	60,000	135,000

#### 【目標設定の考え方】

（一社）奥州市観光物産協会HPアクセス数の最終目標を135,000件とします。これは、年間15,000件以上のアクセス数を目指し設定したものです。

なお、平成28年における前期計画最終目標値は60,000件と設定します。これは総合計画の成果指標において、平成28年の最終目標値を130,000件と設定しておりましたが、アクセスカウンターの設置をHPのリニューアルに合わせ実施するため、平成25年度以降、年間15,000件のアクセス数を指すことを基礎に再設定したものです。

## 6 実施事業

成果指標の重点目標及び部門別目標を達成するために、主要施策ごとに次の事業を実施します。  
また、それぞれの方針において重点事業を位置づけ、前期計画期間内において特に重点的に取り組む事業とします。

### 方針① 観光客誘致の推進

#### I 広域観光ルートの確立と着地型・滞在型プログラム創出の推進

事業名	重点	実施内容	事業主体	事業期間（年度）				
				前期計画				後期計画
				H25	H26	H27	H28	H29～33
着地型観光プログラム創出事業	☆	歴史、自然、食などの地域の埋もれた観光資源の掘り起こし、活用	民間、市	実施		活用		
	☆	豊富な歴史資源の活用によるテーマ別の観光ルートの設定、ツアーの実施による新たなコースメニューの確立	民間、市	実施			活用	
	☆	市民、飲食店、観光事業者などを対象とした新たな観光素材、メニューの公募、観光ルートの設定、活用	市民、民間、市	検討		実施		活用
		各地区の桜、オープンガーデンなど花、緑を活用した観光ルートの設定、活用	民間、市	検討・実施				
		駅からハイキングの実施やレンタサイクルを活用した観光ルートの設定、活用	民間、市	検討・実施				
		市内の観光施設、スキー場、宿泊施設などで利用できる共通クーポン券発行、連動割引特典などの実施	民間、市	検討・実施				
広域観光ルート確立事業	☆	平泉世界遺産に関連した観光資源の活用、観光ルートの構築	市（県、他市町村）、民間	実施				
	☆	胆沢城跡を中心にした歴史回遊ルートの設定、活用	市（他市町村）、民間	検討		実施		
		奥州藤原氏や安倍氏の共通歴史資源を持った市町村との連携した観光施策	市（他市町村）、民間	検討・実施				
		世界遺産連携推進実行委員会による2市1町（奥州市、平泉町、一関市）周遊旅行商品の造成	市（県、他市町村）、民間	実施				
		伊達な広域エリア、岩手県南広域エリアでの広域観光ルートの開発、着地型・滞在型プログラムの創出	市（県、他市町村）、民間	実施				

事業名	重点	実施内容	事業主体	事業期間（年度）				
				前期計画				後期計画
				H25	H26	H27	H28	H29～33
体験メニュー充実事業	☆	正法寺プチ修行体験（座禅、写経、精進料理など）商品プランの設定、活用	民間、市	実施				
		温泉、宿泊施設における体験プログラム（湯治、工芸品づくりなど）の設定、活用	民間、市	検討・実施				
		収穫体験、農作業体験、農家民泊、農産物加工体験メニューの充実、活用	民間、市	実施				
		農業体験と宿泊施設の連携による滞在型観光プログラムの設定、活用	民間、市	検討・実施				
		教育旅行と市内観光施設が連動したルートの構築、活用	民間、市	検討・実施				
		えさし藤原の郷を中心とした歴史体験メニューの充実、活用	民間、市	実施				
		焼石連峰、種山高原、衣川の星空、北上川など自然を活用した体験メニューと宿泊施設との連携による滞在型観光プログラムの設定、活用	民間、市	検討・実施				
二次交通の強化推進事業		タクシー活用事業（定額料金の設定によるタクシー観光モデルコース、乗り合いタクシーなど）の検討	民間	検討				実施
		着地型旅行商品の造成と連動した観光地巡りバス運行の検討、実証実験、事業実施	民間、市	実施				
		交通機関と観光施設、スキー場、宿泊施設が連動した共通チケット、割引特典などの運用による二次交通対策の検討、実証実験、事業実施	民間、市	検討・実施				
誘客促進キャンペーン実施事業		首都圏、仙台圏及び北海道での誘客促進キャンペーンの実施	市（県、他市町村）、民間	実施				
		首都圏及び仙台圏の旅行エージェント、バス会社などへの訪問による旅行商品、周遊プランの売り込み	市（県、他市町村）、民間	実施				
		首都圏、関西圏、北海道を中心とした教育旅行の誘致活動の実施	市（県）、民間	実施				

事業名	重点	実施内容	事業主体	事業期間（年度）				
				前期計画				後期計画
				H25	H26	H27	H28	H29～33
旅行商品造成・販売事業		旅行エージェントとの連携による着地型旅行商品の造成・販売	市（県、他市町村）、民間	造成				販売
		各種観光ルート設定コースによる旅行エージェント招聘ツアーの実施	市（県、他市町村）、民間	検討			実施	
えさし藤原の郷活用推進事業	☆	平泉からえさし藤原の郷への誘客促進の強化	民間、市	実施				
		大河ドラマ、映画、テレビ番組などのロケの積極的な誘致活動	市、民間	実施				
		ロケ実施と連動したトークショーなどのイベント実施	市、民間	実施				
		ロケ実績マップ及び案内板の作成、ロケ資料館の機能充実	市、民間	検討			実施	
		奥州えさし藤原まつりなど藤原の郷を活用した各種イベントの開催	民間、市	実施				
		再掲市内の観光施設、スキー場、宿泊施設などで利用できる共通クーポン券発行、連動割引特典などの実施	民間、市	検討・実施				
		再掲教育旅行と市内観光施設が連動したルートの構築、活用	民間、市	検討・実施				
	再掲えさし藤原の郷を中心とした歴史体験メニューの充実、活用	民間、市	実施					

## II ロケ誘致の推進

事業名	重点	実施内容	事業主体	事業期間（年度）				
				前期計画				後期計画
				H25	H26	H27	H28	H29～33
ロケ誘致・活用事業		ロケ候補地の新規掘り起こしによるロケ地データベースの充実、最新ロケ情報の発信	市、民間	実施				
		再掲大河ドラマ、映画、テレビ番組などのロケの積極的な誘致活動	市、民間	実施				
		再掲ロケ実施と連動したトークショーなどのイベント実施	市、民間	実施				
		再掲ロケ実績マップ及び案内板の作成、ロケ資料館の機能充実	市、民間	検討			実施	

### Ⅲ まつり・イベントの開催

事業名	重点	実施内容	事業主体	事業期間（年度）				
				前期計画				後期計画
				H25	H26	H27	H28	H29～33
イベント開催事業	☆	各区のまつり、イベントの必要性、効果の検証を踏まえたオール奥州の新たなイベントの開催	市、民間	検討				実施
		各区のまつり、イベントの実施	市、民間	実施				
		再掲奥州えさし藤原まつりなど藤原の郷を活用した各種イベントの開催	民間、市	実施				



## 方針② 物産の振興

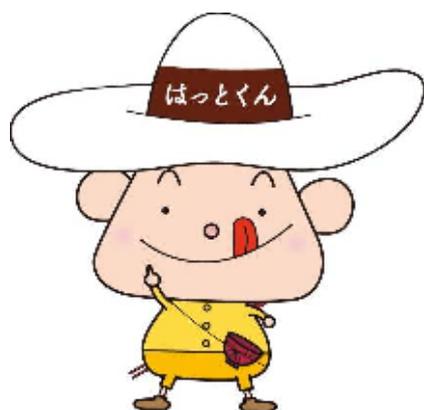
### I 既存ブランドの普及拡大と新たな地域ブランドの確立

事業名	重点	実施内容	事業主体	事業期間（年度）				
				前期計画				後期計画
				H25	H26	H27	H28	H29～33
新規加工品、料理メニュー開発推進事業	☆	農商工連携の推進による新たな加工品、料理メニューの企画・開発	民間、市、市民	実施				
	☆	6次産業化推進による新たな加工品、料理メニューの開発、活用	民間、市、市民	実施				
	☆	前沢牛などの地域ブランドや地場産食材などを使ったコンテストの開催、新規メニューの開発、活用	民間、市	実施				
郷土食活用推進事業	☆	奥州はっとフェスタ、スタンプラリーなどの開催による奥州はっとの普及啓発	民間	実施				
	☆	あんかけうどん取扱店の紹介などによるあんかけうどんの普及啓発	民間	実施				
ブランド品市場拡大事業	☆	前沢牛、江刺りんご、岩手ふるさと米、江刺金札米などの地域ブランド商品の市場拡大	民間、市	実施				
		日本貿易振興機構などとの連携による南部鉄器や岩谷堂箆笥などの伝統工芸品の海外への市場拡大	民間	実施				
		いわての工芸見本市への出展などによる伝統工芸品の市場拡大	民間	実施				



## II 物産の普及啓発

事業名	重点	実施内容	事業主体	事業期間（年度）				
				前期計画				後期計画
				H25	H26	H27	H28	H29～33
特産品普及 拡大事業	☆	奥州市観光物産協会ホームページと特産品取扱店ホームページとのリンクによる特産品紹介の効率化、インターネット販売の推進	民間、市	検討		実施		
	☆	首都圏等で開催される物産展への積極参加	民間、市	実施				
		交流都市・姉妹都市での物産展の相互開催	市、民間	実施				
		首都圏等における特産品アンテナショップの出店	民間、市	実施				
		前沢牛まつり、JAまつり及び各区での産業まつり、商工まつりの開催	市、民間	実施				
		前沢牛横丁の開催充実、市内各地区での出前前沢牛横丁の開催検討、事業実施	民間、市	実施				
		キャラクター（前沢ギュー太、はっとくん、ジョナくんなど）を活用した特産品の普及啓発	民間、市	実施				
		市内宿泊施設、飲食店などでの地場産品や郷土料理、伝統工芸品の利用促進キャンペーンの展開	民間、市	検討		実施		



### 方針③ 観光施設の整備及び新たな観光開発の推進

#### I 新たな観光資源の活用による観光開発

事業名	重点	実施内容	事業主体	事業期間（年度）				
				前期計画				後期計画
				H25	H26	H27	H28	H29～33
胆沢ダム活用推進事業	☆	胆沢ダム周辺施設（温泉・スキー場・焼石連峰・胆沢川溪流釣り・カヌー団体等）との共同による観光開発の推進	市、民間	検討				実施
	☆	胆沢ダム周辺での集客イベントの実施	市、民間	検討				実施
		奥州市胆沢ダム周辺整備計画に基づく事業実施	市	実施				
胆沢城跡活用推進事業	☆	再掲胆沢城跡を中心にした歴史回遊ルートの設定、活用	市、民間	検討		実施		
		歴史公園やその周辺を活用した集客イベントの実施	市、民間	検討			実施	
		国指定史跡胆沢城跡第Ⅰ期外郭南門地区整備計画に基づく事業実施	市	実施				
高野長英旧宅活用推進事業		高野長英旧宅を中心に旧高橋家、武家住宅群などを回遊する「歴史の回廊事業」の実施	市、民間	検討				実施
		高野長英旧宅の一般公開、集客イベントの実施	市、民間	検討	実施			

#### II 既存観光施設の整備・改善

事業名	重点	実施内容	事業主体	事業期間（年度）				
				前期計画				後期計画
				H25	H26	H27	H28	H29～33
既存観光施設整備・改善事業		奥州市観光施設整備計画に基づく事業実施	市	実施				
		既存観光資源の再評価と活用策の検討、市民が楽しめる観光施設の整備	市、民間	検討				実施

#### III 観光案内看板の整備

事業名	重点	実施内容	事業主体	事業期間（年度）				
				前期計画				後期計画
				H25	H26	H27	H28	H29～33
観光案内看板整備事業	☆	平泉文化遺産関連史跡を中心とした誘導案内看板の整備	市（県）	実施				
		主要観光施設、観光案内看板の多言語化	市（県）、民間	検討			実施	
		案内看板と観光HPサイト、アプリとの連動化	市（県）、民間	検討・実施				

## 方針④ 市民、観光団体との連携及び情報発信の充実

### I 観光関係団体・市民ボランティアガイドへの支援

事業名	重点	実施内容	事業主体	事業期間（年度）				
				前期計画				後期計画
				H25	H26	H27	H28	H29～33
観光関係団体の体制強化	☆	観光関係団体の組織機能の充実	民間、市	実施				
ガイド団体体制強化支援事業	☆	市内ボランティアガイドの連絡協議会の設立、運営	民間、市	検討		実施		
		ガイド養成講座の実施	民間、市	実施				

### II 観光情報発信機能の充実

事業名	重点	実施内容	事業主体	事業期間（年度）				
				前期計画				後期計画
				H25	H26	H27	H28	H29～33
インターネット活用推進事業	☆	観光HPの充実、情報の一元化（市、観光物産協会HPの統合）、飲食店、宿泊施設などの情報充実	民間、市	検討		実施		
		観光情報アプリの開発、GPS機能と観光HPを連動させた情報発信システムの構築、運用	民間、市	検討		実施		
		フェイスブック、ツイッター、ブログなどを活用したタイムリーな観光情報の発信	民間、市	実施				
		観光資源やまつり、イベントの紹介動画の制作	民間、市	実施	活用			
観光パンフレット活用推進事業		観光総合パンフレットの定期的な更新	市	実施				
		地域別である現状パンフレットの見直し、市全体の歴史、食、自然などのテーマ別パンフレットの作成	市、民間	検討・実施				
訪日観光客向け情報発信事業		観光HP、パンフレットの多言語化	市、民間	検討・実施				
		市内外国人居住者との連携によるフェイスブック、ツイッター等を活用した多言語の情報発信	民間、市	検討・実施				
		タクシードライバーや観光施設、宿泊施設、観光案内所で活用できる多言語対応ガイドブックの作成	民間	検討・実施				
イメージキャラクター等活用事業		市全体を紹介するイメージキャラクター（ゆるキャラなど）の作成検討、活用	市、民間	検討・実施				
		既存ゆるキャラの活用、推進	民間、市	実施				
		奥州大使を活用した観光PR	市、民間	検討・実施				

事業名	重点	実施内容	事業主体	事業期間（年度）				
				前期計画				後期計画
				H25	H26	H27	H28	H29～33
観光案内機能強化事業		既設観光案内所の効果、検証による案内所の統廃合の推進	民間、市	検討・実施				
		奥州市中心市街地活性化基本計画に位置づけられた観光情報発信施設整備の検討、事業実施	市、民間	検討・実施				
		既設観光案内所のほか、観光施設、宿泊施設、ガソリンスタンド、飲食店などを活用した観光案内機能の構築の検討、事業実施	民間、市	検討	実施			
		高速道路サービスエリアでの観光情報発信の充実（観光情報発信コーナーの設置）	民間、市	検討	実施			

### Ⅲ ホスピタリティーの向上

事業名	重点	実施内容	事業主体	事業期間（年度）				
				前期計画				後期計画
				H25	H26	H27	H28	H29～33
ホスピタリティー向上事業	☆	おもてなし向上研修会、講習会の実施	民間、市、市民	検討	実施			
		奥州おもしろ学との連携による観光PR手法の検討、事業実施	民間、市、市民	検討・実施				
		タクシードライバーによるミニ観光案内を実施するタクシー語り部制度の検討、事業実施	民間	検討	実施			

#### ※表記の説明

- (1) 重点欄に「☆」が表記されているものは重点事業を指す。
- (2) 事業主体欄中、「市」は、県や他市町村と協力して実施する事業も含む。「民間」は、観光関係団体や観光施設、宿泊施設などを中心とする。「市民」は市民個人や市民活動を中心とする。
- (3) 事業期間は、それぞれの事業における「検討」、「実施」などをする時期を表記するほか、関係機関・団体等との協議・調整により実施を検討する事業については、「検討・実施」と表記する。

## 7 計画の推進体制

### (1) 各事業主体の役割

本計画を着実に推進するためには、市民、民間（観光関係団体等）及び行政それぞれの事業主体が協働して取り組む必要があることから、それぞれが担う自らの役割を明確にする必要があります。

#### ① 市民の役割

観光客に対し地域ならではの魅力を発信するため、市民自らが観光に対する意識の高揚を深めることが求められます。また、観光客にリピーターになっていただけるよう、おもてなしの心で観光客を迎えることや、市民が主体のイベント実施や観光客の誘客を促進するための取り組みを積極的に展開することが期待されます。

#### ② 民間（観光関係団体等）の役割

観光関係団体や観光施設、宿泊施設をはじめ、飲食店や旅行会社など観光に関わる事業者は、観光振興の担い手として重要な役割を担っています。観光客の多様なニーズに対応するため、各種サービスの向上や魅力づくりとその発信、従業員等の資質向上などに積極的に取り組むことが期待されます。特に観光物産協会は本計画の推進の中核的な役割を担い、事業者等とのコーディネート等を行い、各種事業を積極的に展開することが期待されます。

#### ③ 行政の役割

市は、地域の観光資源、観光動態等の分析や情報収集に努め、県、他市町村などとの連絡調整、観光物産協会をはじめとした民間事業者や市民との連携を図りながら、本計画の推進に努めます。

### (2) 計画のフォローアップ

本計画は、上位計画である奥州市総合計画の実施計画における毎年度の見直しとの整合を図りながら、奥州市観光基本計画策定委員会において取り組みの成果を適宜評価しつつ、必要な見直しを行います。